

Notice board

■学会活動報告及び会告の原稿提出期限について (お知らせ)

学会活動報告及び会告について、学会誌に掲載をご希望の場合、各号発行日の前月末までに原稿をご提出下さいますようお願い申し上げます。

巻号	発行日	原稿提出期限
Vol.62 No.6	2025年11月25日	2025年10月30日
Vol.63 No.1	2026年1月25日	2025年12月31日

提出先：post@landslide-soc.org

発刊予定と投稿原稿の募集

予定巻号	発刊予定年月	特集内容 (予定)	投稿申込締切期日	原稿締切期日	募集要領掲載巻号
62(5)	2025年9月	—	—	—	—
62(6)	2025年11月	令和6年能登半島地震で発生した斜面変動	2024年12月15日	2025年4月15日	61(5)
63(1)	2026年1月	—	—	—	—
63(2)	2026年3月	地すべり地形のリスク評価におけるAHP	2025年4月15日	2025年7月31日	62(1)
63(3)	2026年5月	—	—	—	—
63(4)	2026年7月	火山・火山噴出物に関連した土砂災害とその対策	2025年8月31日	2025年11月30日	62(3)
63(5)	2026年9月	—	—	—	—
63(6)	2026年11月	地球温暖化に直面する寒冷地の斜面変動研究	2025年12月15日	2026年4月15日	62(5)

*一般投稿とシリーズ「地すべり探訪」、ニュース、フォーラムは随時募集しています。

■特集「地球温暖化に直面する寒冷地の斜面変動研究」 原稿募集

近年、地球温暖化の影響で縮小する氷河が増えており、それに伴いヒマラヤ山脈など世界各地の山岳域で氷河湖決壊洪水に起因した水害や土砂災害の増加が懸念されています。日本に目を向けると、飛騨山脈の杓子沢雪渓や不帰沢雪渓が氷河であることが新たに確認されたことで、今後の氷河の変動やその山岳環境への影響に関心が集まっています。一方で北海道地方や東北地方では、これまで安定していたはずの周氷河性斜面が近年の極端気象によって崩壊するなど、寒冷地における土砂災害の危険性が高まっている状況です。これまでも寒冷地では、冬季から春季にかけて地すべりが多発することが知られていました。最近の研究では、こうした地すべり変動の発生には融雪水の供給による地下水位上昇のほか、冬季の積雪荷重や地温低下も関連していることが明らかになってきており、寒冷地の斜面変動に関する研究課題も多岐に渡るようになってきました。

そこで本特集号では、地球温暖化の影響が顕在化しつつある寒冷地の斜面変動に注目し、地球温暖化による寒冷地での斜面変動や土砂災害の変化、寒冷地の地形形成や水・土砂移動に重要な役割を果たす氷河・周氷河作用の特徴やそれらの作用が斜面変動に及ぼす影響、積雪・融雪量や地温などの変化による斜面変動の発生機構ならびに運動特性の変化、寒冷地における土砂災害の予測・対策技術などに関する最新の研究成果について、幅広く原稿を募集します。

○特集名：地球温暖化に直面する寒冷地の斜面変動研究
英文：Research on landslides in cold regions under global warming

○公募原稿のテーマ例

- ①地球温暖化による寒冷地での斜面変動や土砂災害の変化
- ②斜面変動に影響を及ぼす氷河・周氷河作用の特徴
- ③寒冷地（雪氷圏・雪氷地域）における斜面変動の発生・運動機構の特徴
- ④寒冷地における斜面変動の調査・観測技術
- ⑤寒冷地における土砂災害の予測・対策技術

○募集原稿：研究ノート、論文、技術報告、総説

○発刊予定：第63巻6号（2026年11月末頃発行予定）

○投稿申込み：2025年12月15日までに日本地すべり学会事務局あてメールにて送付

- ・申込みアドレス：post@landslide-soc.org
- ・メールの題名：特集号原稿申込（著者名）を記入
- ・申込み項目：特集名、題名、著者名、所属、連絡先住所、電話、メールアドレス、原稿種別、要旨（200字程度、添付ファイルとせず、本文に入れてください。）

○原稿執筆

- ・執筆要項：学会誌第63巻1号または学会HPに掲載の執筆要領
- ・原稿締切：2026年4月15日
- ・原稿送付先：<https://www.editorialmanager.com/jls/>（Editorial Managerを利用した電子投稿とします。）

なお、投稿いただいた原稿は通常号の原稿と同様に査読を行います。したがって、内容によっては通常号への掲載をお願いすること、あるいは掲載をお断りすることもありますので予めご了承ください。